

MOBILE SUIT VARIATION

NEW

HAND BOOK 1

リアルマーキングシール付

U.C.0153

モビルスーツハンドブック



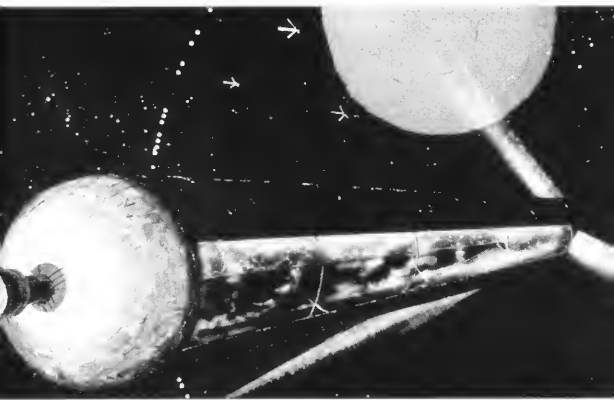
ザンスカール帝国軍(BESPA) 地球侵攻作戦開始!

宇宙世紀——人工宇宙都市・スペースコロニーの完成により、宇宙への移住を可能にした人類は、その生活圏を宇宙空間へと広げていった。

地球周辺に浮かぶ無数のコロニーの群れは、サイドと呼ばれる自治区ごとに区分されている。遠く木星圏までのびた宇宙資源の開発による自給自足体制が、人類の多くを占める宇宙移民者たちの生活を支えていたのである。

しかし、永きにわたる地球連邦政府による地球圏の統治は形骸化し、政治、経済、文化、産業とあらゆる面で沈滞を生み出していった。そして、抗争は月の軌道にあるサイド2から起こった。七、八十のスペースコロニーからなる、このコロニーに住む人々は、地球連邦政府の行政に不満を抱いていた。フォンセ・カガチが作った政党、ガチ党は、マリ・ア・アモニアを女王に擁立、サイド2のほぼ全域を支配下におさめ、ザンスカール帝国の建国を宣言した。

ザンスカール帝国は、宇宙の新たな秩序作りに向けて、地球にその勢力を伸ばし始めたのである。



ベスパが東欧のラゲーンに降下したのは、この地の飛行場を前進基地にするためだった。地球連邦政府が管理する特別居住区ウィッグとそれに関連する施設の制圧が目的だが、さらにウィッグ周辺に潜伏する反ザンスカール及び反地球連邦政府の抵抗組織を叩くという狙いもあったようだ。

BESPAという組織は、Ballistic Equipment & Space Patrol Armory略称「弾道研究と宇宙偵察部隊本部」の意。ザンスカール帝国が、サイド2に駐留する地球連邦軍を接收した際、その旧式となりつつあった軍備の再編のために組織した機関。ザンスカール帝国軍なのである。

ベスパ機動兵器・型式番号の読み方

例. シャッコー〈ZMT-S12G〉の場合

- 所属・ザンスカール帝国
- MOBILE(モビル・機動兵器)
- TEST(テスト・試作機の場合)

ZMT-S12G

- 機体種別
- S・SUIT(モビルスーツ)
- A・ARMOR(モビルアーマー)
- O・QUAL(デュアル)
- 1つの機体で、M・Sと
- 開発番号
- 使用環境
- S・SPACE(宇宙用)
- G・GROUND(大気圏内用)
- M・MARINE(水中用)

MOBILE SUIT V-GUNDAM



リガ・ミリティア機動兵器・型式番号の読み方

例. Vダッシュガンダム
(LM312V04+SD-VB03A)の場合



地球連邦機動兵器・型式番号の読み方

例. ジェムスガン(RGM-119)の場合



※地球連邦は常に数社に
競合で開発を依頼した
ため、年代とメーカーで
型式番号が異なる。

地球連邦政府軍は弱体化しており、ベスバの先遣隊イエロージャケットの攻勢には、なす術がなかった。

だが、リガミリティア(神聖軍事同盟)といわれる抵抗組織が、連邦軍に代わってベスバに立ち向かうとしていた。

リガミリティアには、連邦軍の退役軍人やモビルスーツを製造していた民間企業出身のメンバーが多くいて、独自の技術でベスバの最新型MSに対抗する機体を完成させた。

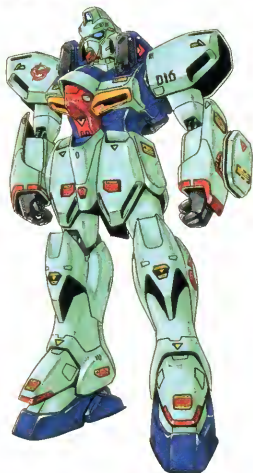
それは、かつての伝説の白いMSにあやかり、勝利のシンボル、Vガンダムと呼ばれた！

LM111E02 ガンイージ

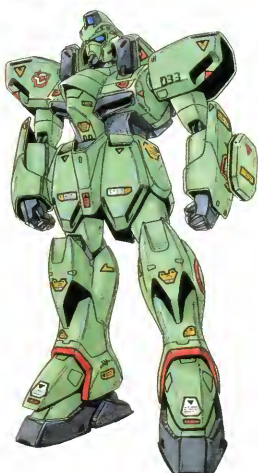
初期生産型(シュラク隊ジュンコ機)



後期量産タイプ

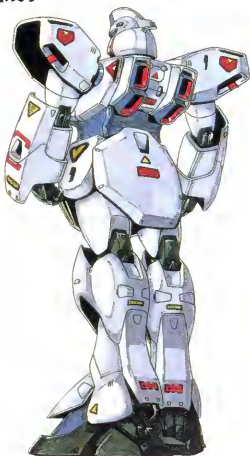
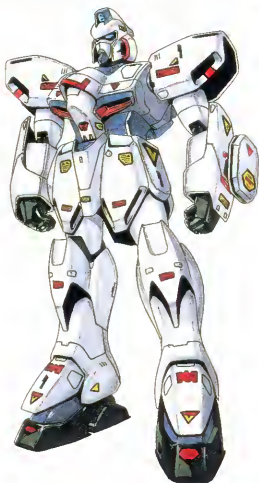


増備タイプ

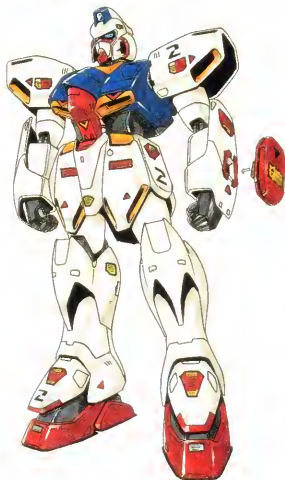


LM111E02ガンイージ・プロトタイプ

ロールアウト時(1、2号機)



後期塗装(2号機)



シュラク隊マーキング



シュラク隊
エンブレム
(左肩)

パーソナルマーク(腰アーマー)



ジュンコ・ジェンコ



マヘリア・メルル



ケイト・ブッシュ



コニー・フランシス



ヘレン・ジャクソン



ペギー・リー



マリン・チェスカ・オハラ

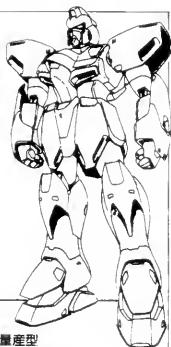


ユカ・マイラス

ガンイージ開発小史

この機体は、来たるべきザンスカール帝国の地球進攻が決定された際に、イエロージャケットのモビルスーツに対抗するため開発された。

開発コードにあるEO2は、ガンイージがVガンダムよりも先に開発されていたという証である。だが、そうするとO1というコードを持つ、リガミリティアが最初に開発したモビルスーツが存在するはずである。ガンイージの開発にあたったのは、月のセント・ジョセフ市近郊の地下工場だといふ。フォン・ブラウン市に次いでルナリアンの勢力が強く、連邦政府の干渉が届かない地域である。リガミリティアの指導者たちは、ここを根城として決戦兵器となるMSの自主開発を行っていた。やがて、マルチブル(変形)モビルスーツの構想が生まれ、その生産プラントは地球上へも移されるようになる。その開発に力を貸したのは、かつてのサナリイ(海軍戦略研究所)の技術者だったという。しかし、彼らの中にはザンスカール帝国のMS開発に手を貸している者もいたため、機密漏洩を恐れてO1を抹消したと見せかけ、ガンイージの開発を進めたのではないかと云われる。

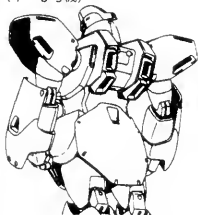


■機体No.1/2
ガンイージ・プロトタイプ

プロトタイプは、2機製造された。完成時、未塗装のガンダリウム合金の地肌のままに各種デストが行なわれたという。これには頭部バルカン砲やビームサーベル収納庫などの固定武装は装備されていなかった。

1号機はテストパイロットのジュンコ・ジェンコと共にシュラク隊へ配備。その際に標準化改装が施され、量産機とまったく同じ武装・性能となった。同時に機体色もオリブグリーンに塗り換えられた。残された2号機は後に、ホワイト・レッド・ブルー・イエローのカラーを基調にした、いわゆるガンダムカラーに塗り換えられ、基本的な能力テストが続けられたという。

初期量産型
腰アーマー
(1~8号機)



■機体No.3/8
ガンイージ・初期生産型

シュラク隊の結成に合わせて量産された機体。製造時より固定武装を持ち、6機が生産された。

シュラク隊の隊長機であるジュンコ・ジェンコのガンイージは、前述のようにプロトタイプからの改装機である。

そのため、8号機は一時的にオリファ・イノエが搭乗したこともあるが、後に部品取り用の予備機になったという。

■機体No.9/15
ガンイージ・増備タイプ

コストのかかるウェイクトリタイプに比べ、ガンイージの量産は積極的に進められている。初期型との差はほとんどなく、外観ではリアアーマーに欠き取りが有るのが特色。

■機体No.16以後
ガンイージ・後期量産型

強化型のガンブラスターの配備が開始されてからも、地球圏の部隊向けにガンイージの生産は続けられている。塗装はガンブラスターと同色のカラーリングに変更されている。

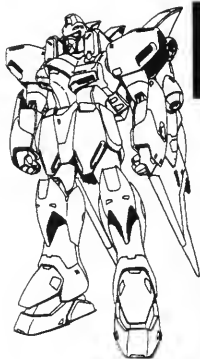
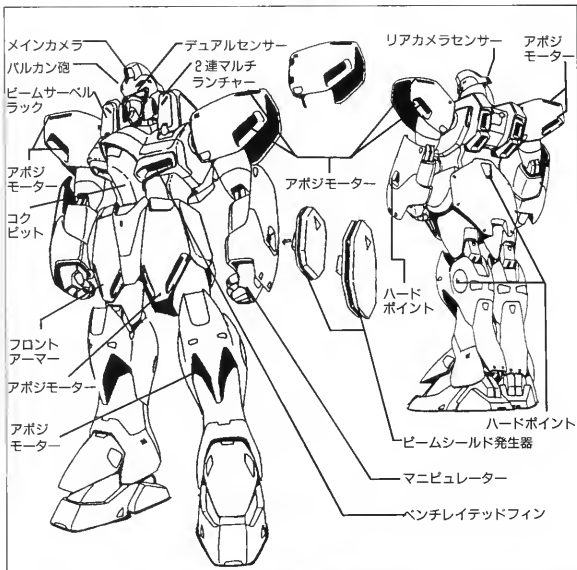
■現地改造仕様
ガンイージ・陸戦タイプ

地球圏に配備されたガンイージの中には、防砂・防塵のための改装を施した機体も存在した。

外観的には、インテーク、スラストの各ノズルにフィンを追加したり、放熱グリルを変更したりするといった差がある。これらの改装は、ほとんど現地の部隊によって、加工されたものだ。したがって、開発コードによる区分には含まれないものである。

LM111E02

GUN EZ

リガミリティア
汎用量産型モビルスーツLM111E03
GUN
BLASTORMS
SPEC

頭頂高：14.9m
 本体重量：7.6t
 全備重量：18.6t
 装甲材質：ガンダリウム合金
 スーパーセラミック複合材
 ジェネレーター出力：4820kW
 スラスター推力：20460kg×4
 アポジモーター数：29
 武装：頭部バルカン砲×2（固定）
 ビームサーベル×1
 ビームシールド×1（固定）
 2連マルチランチャー×1（固定）
 ビームライフル×1
 メガビームバズーカ×1

■強化型ガンイージ ガンブラスター

当初より宇宙空間での使用も考慮されていたガンイージであったが、より戦術的に高度な作戦活動に対応できる様に、背部スラスターを高機動型ブースターに換装したのが、この機体である。

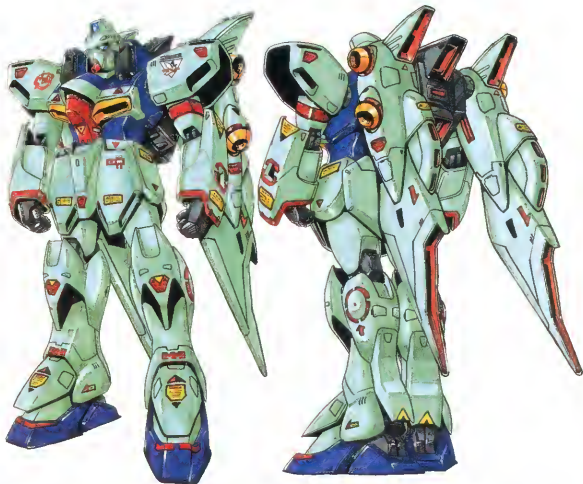
ガンブラスターはガンイージの生産ラインに一定の割合で同時生産された。

また、背部ブースターデバイスのみでも生産され、シユラク隊をはじめ、かなりの機体が背部を換装して、ガンブラスターとなっている。

さらに、機体色も、このグループより明かいグリーン系に変更されており、既存機も背部ユニット換装時に、カラーリングの変更が行われている。

LM111E03 ガンプラスター
LM111E02 ガンイーグ陸戦タイプ

ガンブラスター(シュラク隊/ユカ・マイラス機)



**ブルーバード隊
所属機**

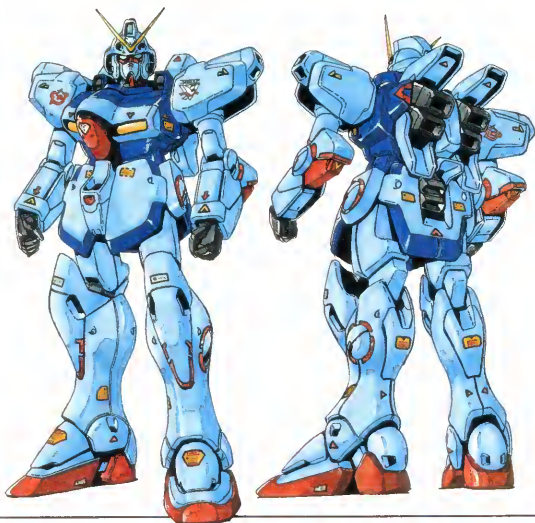


陸戦タイプ(現地改造仕様)

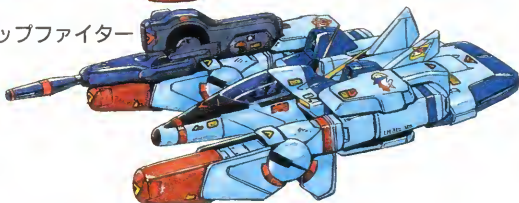


LM312V04 ヴィクトリーガンダム

Vガンダム(シュラク隊)



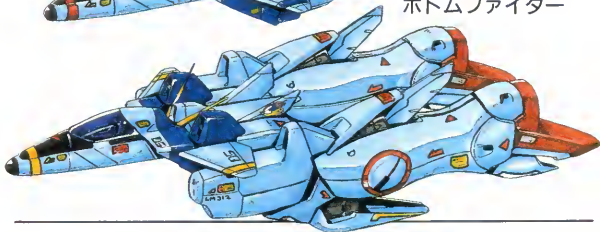
トップファイター



コアファイター



ボトムファイター



Vガンダムの開発

リガミリティアは各地に点在するグループをネットワークし、その個々の工場でもビルスーツの生産を可能としていた。そして彼らはザンスカル帝国に対抗する抵抗運動のシンボルとして、伝説のビルスーツ・ガンダムを復活させたのである。これが勝利のシンボル、Vガンダムだ。

Vガンダムは、上半身と下半身を切り離して運用できるという特色に加えて、ファーストガンダムなどに採用されたC・B・S（コア・ブロック・システム）を有するビルスーツである。Vガンダムの頭部とメインジェネレーターはBパーツといわれ、このブロックがコアファイターに変形するようになっている。

さらに、上半身のトップリム（Aパーツ）はコアファイターとドッキングしてトップファイターに。そして、下半身のボトムリム（Cパーツ）もコアファイターとドッキングしてボトムファイターになり、戦闘マシンとしての個別運用が可能になっている。さらに、ハードポイントによる武装システムで、さまざまな戦術的レベルアップが図れる画期的なビルスーツである。

ヴィクトリータイプの開発は、ヨーロッパ各地に点在するリガミリティアの工場で行なわれた。この地区に残されていた、旧世紀時代の自動車や飛行機などの工場の製造施設を利用したのである。その製造は同じ図面に基づくものだが、工場ごとに独自の調整を行なったため、若干の差異が生じている。

■1号機（カミオン隊/ウツソ機）

各地でパーツごとに製作されたヴィクトリータイプは、正確には何号機といった区別はつけられていない。だが、便宜上、ウツソ・エヴィンが搭乗した機体を1号機として扱っている。

カミオン隊が調達したトップリムは、上腕の形状が角型になっているのが特徴であった。設計上は、後に量産された丸型が正解なのであるが、これは変形上の作動を確かなものにするため、ロックし易い角型にしたのだと言われている。これは、ウツソのVガンダムが、極めて初期に生産されたものである証拠だ。

ちなみに、この機体のテストパイロットはマーベット・フィンガーハットであったが、彼女の負傷によりウツソが乗ることになったのは周知の如くである。

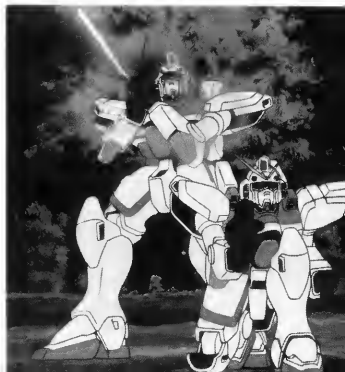
■一般機

これも、ウツソ機に対する便宜上の呼び名であり、特に大きな変更点があるわけではない。上腕部は、図面通り丸型で調整されている。オリファア・イノエがカミオン隊に合流した際に乗っていた機体も、こちらである。また、ベチエンの飛行場へ運ばれていた2機のVガンダムも同じ。

ヴィクトリータイプの生産数は、各工場でA・B・Cのパーツごとに生産されていたため、正確な数はつかめていないのが実状である。おそらく、地球上では20機分前後のパーツが完成されていた。

■Vガンダムへキサ

ヴィクトリータイプの量産後期に少数生産された指揮官タイプ。変更されたのはコアファイター（Bパーツ）に付属する頭部で、通信・索敵機能が改良され向上した。外観的には頭部のみが変わり、V字形アンテナを無くし、頭部両側に高性能アンテナが付けられた。

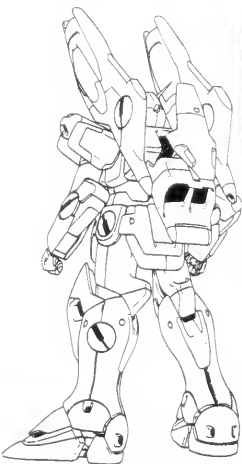


この場合でもトップリム、ボトムリムには変更点はなく、諸性能は通常のヴィクトリータイプと変わりはない。

また、後期に月のリガミリティア秘密工場で生産されたヘキサタイプは、通常のVガンダムと区別するために、足の甲の部分が青く塗装されていた。

ちなみにヘキサの名の由来は、コードナンバーの「06」から。

V-GUNDAM



頭頂高：15.2m
 本体重量：7.6t
 全体重量：17.7t
 装材材質：ガンダリウム合金
 スーパーセラミック複合材
 ジェネレータ出力：4780kw
 スラスター推力：7390kg×6
 4420kg×8
 アポシモーター数：34
 武装：バルカン砲×2
 ビームサーベル×2
 ビームシールド×1
 ビームライフル×1

ウィクトリータイプのバックパックに増加武器としてオーバーハングキャノン2門を装備したサポートデイスを喚装したVガンダムのことを、便宜上Vダツシユガンダムと呼んでいる。

このサポートデバイスには、Bパートすなわちコアファイター単独と喚装することも可能で、この状態では各ユニットに分離・変形しコアブラスターを形成するように調整されている。

デイスは、そのものは攻撃用途だが、クルーズ（長距離用）機能も兼ねているわけだ。当然、このデイスはヘキサタイプへの装着も可能である。

11

LM312V06 Vガンダム ヘキサ LM312V04+VB03 Vダッシュガンダム

〈リガミリティア マーキング〉



隊長機
(右肩)

一般
(右肩)



カミオン隊
(左肩)

■ パーソナル・エンブレム



オリファア・イノエ

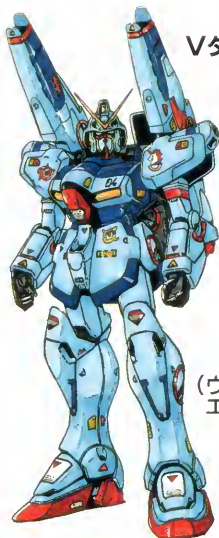


ウツソ・エヴィン

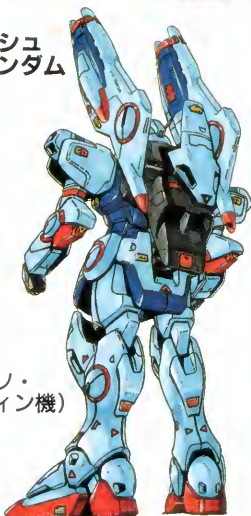
VGヘキサ
(オリファア・イノエ機)



Vダッシュ
ガンダム

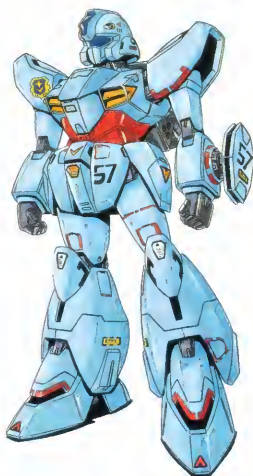


(ウツソ・
エヴィン機)



RGM-119 ジェムズガン

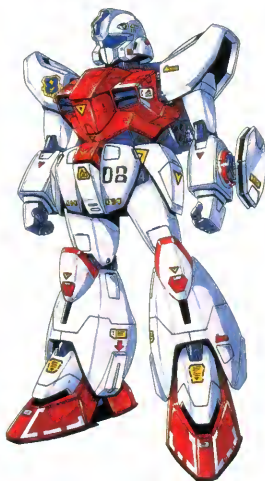
ヨーロッパ地区配備機



コロニー守備隊機



宇宙艦隊所属機



ジェムズガンの開発

ジェムズガンは、旧式化しつつあった連邦軍の主力モビルスーツ、RGM-109ヘビーガンの後継機として、アナハイム・エレクトロニクスが開発と生産を担当したモビルスーツである。当初、地球連邦軍側の要求性能はヘビーガンと同程度のものであり、メンテナンスの簡便さの方が重視されていた。要するに、本機体はRGM系列の延長線上にある量産型汎用モビルスーツだったのである。

ところが、その開発期間中にサナリイのF（フォーミュラ）シリーズの存在が無視できない状況になってきたため、急拠、大幅な計画の見直しが行なわれることになった。

それは、基本フレームの設計を同一にして、宇宙用と地上用（コロニー内の運用も含む／重力下用）の二種類の機体を開発しようというものである。ここに地上用のジェムズガン、宇宙用のジャベリンという二つのモビルスーツが誕生することになる。

ジェムズガンは小型MSでありながら、各部は旧式のRGM-89ジェガンの設計を踏襲している所が多い。これは012

0年代になっても使用され続けた名機ジェガンに対する連邦軍関係者の信頼のあらわれと見てよいだろう。

ジェムズガンの正式採用は0119年であるが生産化が遅れたために、0123年のC・V（クロスボーン・バンガード）の峰起にあたり、鎮圧部隊として参戦したのはわずか7機にすぎなかった。それも月面の連邦軍施設の防衛という任務であつたため実践における評価は、今に定まらない。

ジェムズガンによって戦闘を経験した連邦軍兵士は、口を揃えてジェネレーターの出力不足を指摘している。

一部には、この機体はMSではなくてMW（モビルワーカー／工事用などの作業用機）だと言う声すらある。

その反面、これといった故障もなく、アフリカや南米、また北極といった気象条件の厳しい地区でも若干の改造で運用できるといふ利点も合わせ持っている。

ジェムズガンは、正式採用から30年以上が経過した旧型機であるが、各地域の連邦軍駐屯地では、たいへん重宝がられ稼働率の高いMSなのである。

現地での応急的な改造を除くとこれといった性能の変更はない。

■初期量産タイプ

開発当初のジェムズガンは、地上用としての運用コンセプトが定まっていなかった。そこで、配属が開始された0120～0125年頃までは、それまでのヘビーガンやGキャノンに採用されていたライトグリーンが用いられていた。C・V軍によるフロンティアサイド制圧にあつてグラナダ守備隊に編入された初期生産分7機は、すべてこの塗装だった。

■宇宙艦隊所属機

地球連邦軍汎用量産型MS、ジムの伝統を受け継ぐカラーリングである。ただし、実践向けのものではなく艦隊の儀礼用に小数が塗り換えられたにすぎない。

ジャベリンの配備が整うまで、暫定的に存在した。スラスターとアポジモーターを宇宙用のものと換装したという説もあるが定かではない。

■コロニー守備隊機

スペースコロニー、各サイドの防衛用に配備されているガーディアンタイプ。

0130年頃まではライトグリーンが正式塗装だったが、かつてコロニー内用のジムコマンド（G型）に採用されたカラーリングに変更された。

■ヨーロッパ地区配備機

ジェムズガンの塗装として一般によく知られるグレイ標準塗装。一部の熱帯地方を除いて、0153年時での地球上に配備されている機体は、ほぼこのカラーリングに統一されている。

■インド地区配備機

地球連邦軍の重要拠点があつたチベットのラサ地区周辺に配備された機体カラー。もともとは、ホンコンシティを中心とするアジア地域の守備隊用の塗装であつたらしい。

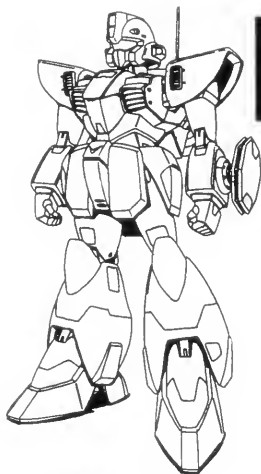
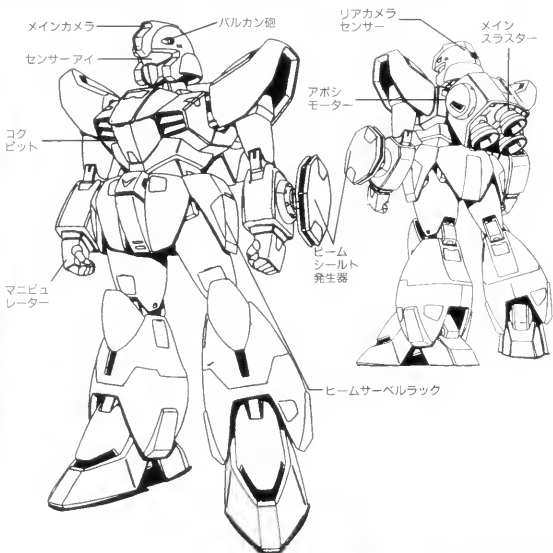
■アマゾン地区守備隊

この塗装もまた、かつての地球連邦軍本営ジャブロー周辺の警戒用に配備された機体。その任務は、資材や核燃料の盗難を防ぐといった程度のものである。密林仕様ともいわれる。

RGM-119

JAMES GUN

地球連邦軍
汎用量産型モビルスーツ



MS SPEC

頭頂高：14.7m
 本体重量：7.1t
 全備重量：16.3t
 装甲材質：ガンダリウム合金
 セラミック複合材
 ジェネレータ出力：3680kW
 スラスタ推力：2270kg×3
 アポシモーター数：16
 武装：頭部バルカン砲×2
 ビームサーベル×2
 ビームシールド×1
 ビームライフル×1

■AAA隊

アフリカ戦線でベスバのアフリカ地区制圧部隊と渡り合ったのが、現地仕様の改造ながら、D型のコードナンバーが与えられたジェムズガン擁するAAA（フォアベンジャー／4人の復讐者）隊である。その名の通り、4機のMSによる猛者揃いの部隊で、リガミティアに加勢したロベルト・ゴメス大尉は、この部隊に在籍していた。リガミティアの夜襲戦闘部隊、ブルーバード隊の協力を得て、ベスバの進軍をキリマンジャロ付近で喰い止めた。

RGM-119D

インド地区配備機



アマゾン地区守備隊



〈連邦国籍マーク〉



艦艇用



MS用
(右肩)

連邦軍統一ナンバー
(腰アーマーに表示)

01234

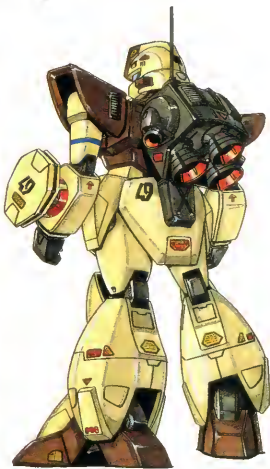
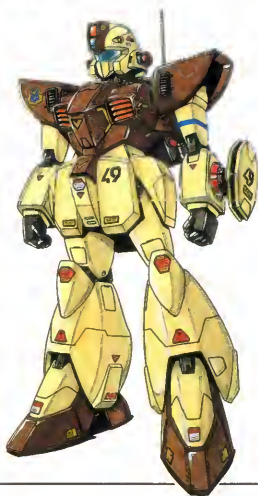
56789

初期量産タイプ

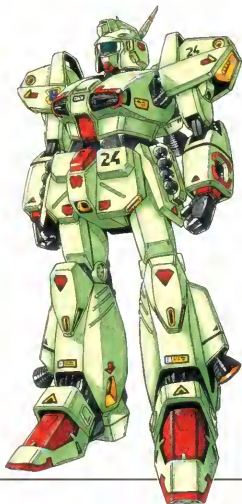


RGM-119D 砂漠用ジェムズガン
RGM-109 ヘビーガン

砂漠用ジェムズガン (AAAA隊)



ヘビーガン



AAAA隊(一般型)



ビームローターとゾロ

ベスパが実用化に成功したMS初号機はZM-06Sの開発コードを与えられたゾロアットであった。宇宙世紀0153年に地球降下作戦が決定されるにあたって、重力下での運用にふさわしいモバイルスーツの開発が急務となった。

旧サナリイ（地球連邦軍海軍戦略研究所）出身の技術者たちは、ビームシールドの技術を応用し、それまでは戦艦級の巨大なジェネレーター（核融合炉）でなくては実現できなかったミノフスキークラフトを、MSのジェネレーターでも可能にしてみた。

ビームシールドをローターとして回転させ、ミノフスキークラフトの反発力を利用して揚力の代わりにするものだ。この新機構はゾロアットをベースに開発されたZMS-08Gゾロに採用され、シャッコーやゴッゾーラといった試作型モバイルスーツにまで標準装備されている。

ゾロは、このビームローターをもっとも効果的に生かして設計された機体だ。それは上半身と下半身が分離し、それぞれトップターミナル、ボトムターミナルと呼ばれる飛行形態に変形する可変モバイル

ルスーツなのである。

パイロットはトップターミナルに搭乗、下半身は無人機で、ミノフスキークントロールによって遠隔操作される。合体はレーザー誘導で行なわれるため、ミノフスキークラフト散布下でも支障はない。

トップターミナルの外観は、旧世紀時代の戦闘ヘリコプターとよく似た形態をしており、地上掃討用のバルカン砲が機首にある。主翼には、ビームサーベルを兼ねたビームガン。主翼下面には9連ミサイル弾ポッド、もしくはプロペラントタンク（増槽）を懸下できる。

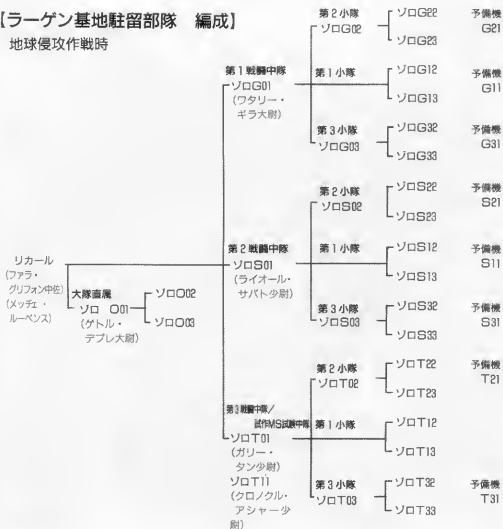
ボトムターミナルには、股間部分に爆撃ユニットを装備。もしくはマルチバズーカやガドリリング砲の搭載も可能である。ただし、火器の使用はモバイルスーツ形態時に限られている。

後継機である可変タイプのトムリアットやゾロアットの地上型ゾリディアの完成によって、その配備はごく限られた地域だけになってしまったが、ベスパを代表する名機として、その栄光は後世にまで語り継がれることだろう。

ゾロの塗装バリエーションとして一般的なものは、ラゲーン基地配備の濃緑色とグレー。

【ラーゲン基地駐留部隊 編成】

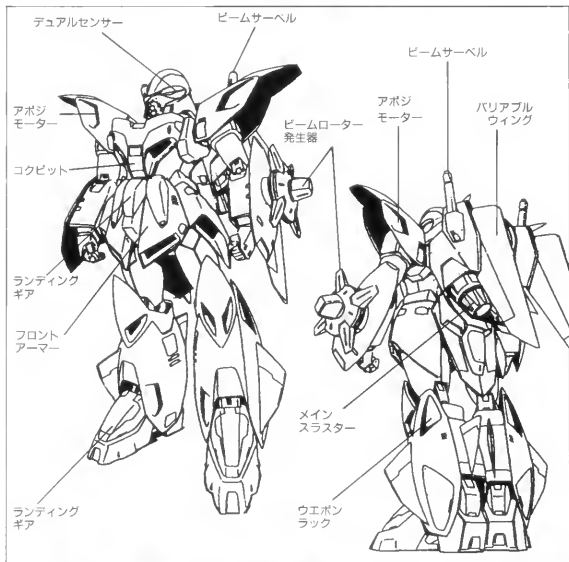
地球侵攻作戦時



ZM-S08G

ZOLO

ザンスカール帝国 汎用型可変モビルスーツ



MS SPEC

頭頂高：14.8m
 本体重量：8.9t
 全備重量：21.2t
 装甲素材：チタン合金ネオセラミック
 複合材
 ジェネレーター出力：5120kW
 スラスタ推力：11890kg×2
 7630kg×2
 アポジモーター数：30
 武装：ビームサーベル×2
 ビームローター×1
 ビームライフル×1
 バルカン砲ほか

■試作MS試験中隊

ラゲーン基地に駐留するイエロージャ
 ケットのうち、第3戦闘中隊はベスパの
 試験型MSの試験部隊も兼ねている。初
 めて地上に降りたクロノクルはこの中隊
 長となり、早速、ZMTS12Gシャ
 ッコの大気圏内テストを行なうことにな
 った。その試験飛行の最中にリガミリ
 ティアのコアファイターを発見、追跡中
 にウツソのパラグライダーに接触したの
 である。

クロノクルがザンスカール帝国女王マ
 リア・ピア・アーモニアの弟君という身
 分であるため、ガリー・タン少尉がその
 片腕として試験中隊の指揮を取ること
 もある。

この中隊に配備されているゾロは、す
 べて先行量産試験型であるため、量産機
 と若干の違いがある機体も存在する。中
 でもクロノクルの乗機はスラスタ推力
 やアポジモーターをチューンナップした
 特別仕様の機体であるといわれる。真紅
 の塗装を施したのは、クロノクル流のパ
 フォーマンスであろう。

ZM-S08G ゾロ

一般兵(イエロージャケット所属機)



トップターミナル



ボトムターミナル



ZM-S09G トムリアット

〈ザンスカル帝国軍
マーキング①〉

国籍マーク

地球降下部隊



■部隊マーク

【中隊長】

【一般兵】



イエロー
ジャケット



カイラスギリ
大隊



ピピニーデン
中隊



クロノクル・アシャー中尉
(当時) 専用機



トムリアット

(アルビオ・ピピニーデン大尉専用機)



トムリアット・ビビニーデン中隊

アルベオ・ビビニーデン大尉は、クロノクル・アシャーの士官学校時代の先輩にあたる。イエロージャケットの司令官タシロ・ヴァゴ大佐の信任が厚く、ワタリー・ギラ大尉亡きあとのラゲーン基地の戦力補充を目的にカィラス・ギリより派遣された。

だが、それは表向きの理由でギロチンでオイ・ニュングを公開処刑してしまつたアラ・グリフォン中佐の後釜にすえようというのが狙いだったようだ。なりゆきからラゲーン基地司令官の地位についたゲトル・デブレ大尉は功をあせるあまり、自ら出撃、シュラク隊との戦闘で命をおとした。

ビビニーデン中隊には、最新鋭の汎用型量産可変MSトムリアットが配備されている。トムリアットは、単機で戦闘へり形態に変形でき、その攻撃力はゾロを格段上回るものである。また、実体弾とビームの両方が発射可能なマルチバズーカも使用できる。この武器はゾロ用に開発されたものだったが、実戦で効果をあげたのはトムリアットが使用するようになってからだ。また接近戦では、破壊力

の高いビームトマホークをビームサーベルに代えて使用する。

ビビニーデン中隊は、3機単位、3つの小隊（合計9機）で編成されている。

第1小隊はビビニーデン、第2小隊はルベ・シノ中尉。第3小隊はクワン・リー少尉がリーダーであるが、ビビニーデンが出撃できない場合は、キツサロリア少尉が指揮を取っていた。

キツサロリアはラゲーン基地着任前に、ドゥカー・イク大尉の戦闘バイク部隊、ガッタール隊の支援にまわつたものの、Vガンダムとの反撃に会い、2機を破壊している。

二度目の出撃はビビニーデン自らが指揮を取り、キーラ、ジルらの部下6機で出撃。2機を失つたものの、Vガンダムの捕獲に成功したかのように思われた。だが、そこへ駆けつたオリファ・イノエのポトムファイターの攻撃を受け、さらに1機をうしなつてしまう。

ゲトル・デブレの要請で3機のトムリアットを貸すが、すべてデブレ隊のゾロと共に、Vガンダムとシュラク隊のガンイージの活躍の前に全滅させられてしま

つた。

ビビニーデンは、補充された機体を加えて、ルベ・シノとクワン・リーにリガミティアの追撃を命じた。ルベ・シノの小隊はベチエンの旧飛行場でガッタール隊と共に連邦軍の輸送機を追いつめたものの、シュラク隊のヘレンの捨て身の攻撃で仲間を失い、自分の機体も破壊されてしまった。

条約では非戦闘地域のアーティ・ジブラタルの引越越公社を攻撃するという最後の賭けに出たアラ・グリフォン。その指揮下に入ったルベ・シノ、クワン・リーであったが、試作型メツメドーザに乗ったクワン・リーはウツソのVガンダムの前に敗れた。だが、シュラク隊もマヘリアとケイトを失っている。ビビニーデン・サーカスとまで言われた絶妙のフオーメーションは、リガミティアの精鋭達にとつても、まさに驚異であり、損失も大きかった。

トムリアットは、ラゲーンを中心にしてアフリカ地区制圧部隊へも配備されている。

ラゲーン基地配備のトムリアットのうち一般のイエロージャケット兵士用は、濃緑色で塗装されている。

【ビビニーデン中隊 編成】

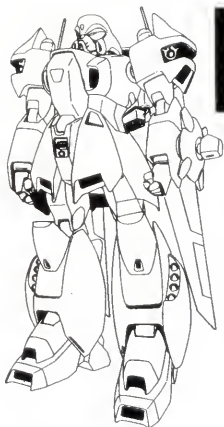
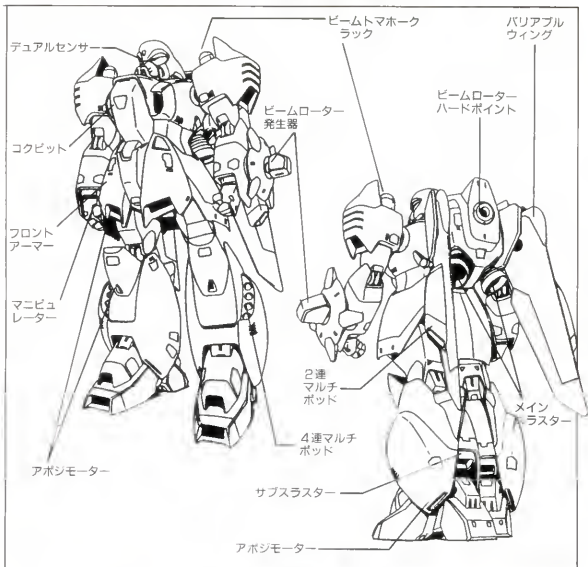
地球降下作戦時



ZM-S09G

TOMLIAT

ザンスカール帝国
汎用型可変モビルスーツ



ZM-S09GE

MS SPEC

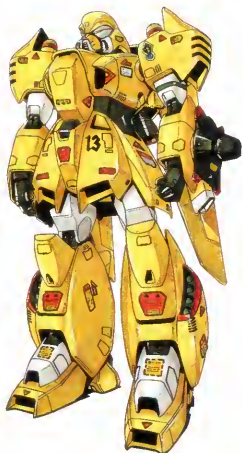
頭頂高：15.0m
 本体重量：8.6t
 全備重量：20.7t
 装甲素材：チタン合金ネオセラミック複合材
 ジェネレーター出力：6540kW
 スラスタ推力：10630kg×2
 7840kg×2
 アポジモーター数：29
 武装：ビームトマホーク×2
 ビームローター×1
 4連マルチポッド×2
 2連マルチポッド×2
 ビームライフル×1
 マルチバズーカ×1

地球侵攻作戦が侵攻する中で、反抗勢力の偵察を目的に編成された特務部隊。

トムリアットを改造したEタイプと呼ばれる機体は、両肩と腰アーマーに各種リーダーや通常&暗視切換のカメラ等を装備。また、主翼の大型化やステルスバーニアへの交換も行なわれている。実際の偵察行動は、基本的にEタイプ1機と随伴機（こちらも改良型）が2機の3機で編成を組む。主にヘリ形態のまま行動することが多かった。また、偵察行動は夜間に限定されたため、機体は黒一色で、「黒い末亡人」という毒蜘蛛の名が付けられた。

■ブラックウィドウ隊

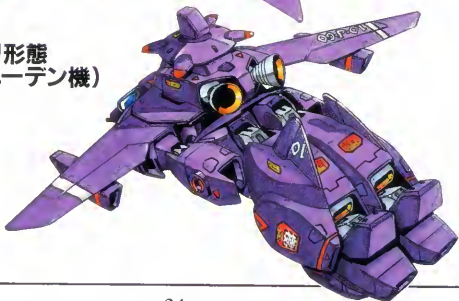
アフリカ地区制圧部隊機



イエロージャケット所属機

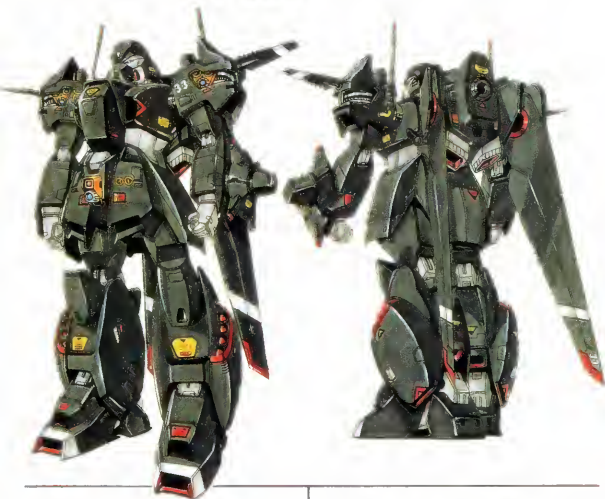


戦闘ヘリ形態
(ビビニーデン機)



ZM-S09GE トムリアット 偵察タイプ

ブラックウイドウ隊(偵察機)



(ザンスカール帝国軍
マーキング②)

ブラックウイドウ隊
(随伴機)



ラケーノ基地駐留隊



小隊長識別マーク



ブラックウイドウ隊

■ パーソナル・エンブレム
(左腰アーマー)



オ・ビビニーデ



グランド・セイレーン



■リガミリティア／連邦軍MS用銃器について

一口にモビルスーツの銃火器といってもその戦略・戦術、用法によって、形態やスペックは著しく異なるものである。

Vガンダムやガンイージを独自に開発したりガンミリティアとはいえ、所詮、実態はギリラ組織にすぎない。ザンスカール帝国の軍事力とは比較にならぬほど微力なものである。マルチブル（変形）MSとして開発されたVガンダムやV2ガンダムも、その生産を分割してベスバの秘密警察の監視からカムフラージュしなければならなかったという事情も大きい。また、各部をブロック毎に分割することによって、修理やメンテナンスを容易にし、早急な体勢の立て直しが行えるという利点もある。非変形のガンイージの場合でも、Vガンダム、V2ガンダムと部品が共用できるように配慮されている。さらに、ジェムズガンやジャベリンといった連邦軍のMSとも一部の部品や装甲が交換できるようになっている。

リガミリティアはVガンダムおよびガンイージに共通のビームライフルを採用している。これは前述のようなリガミリティアの内情によるところが大きいのだ

が、出力の低い連邦軍製のMS用ビームライフルをリガミリティアの戦術担当官が相手にしていなかったというのが実情であろう。その基本設計はビームビストルと呼ばれる発射機からなり、出力増加バレル、マルチサイト、エネルギーユニットおよびバックといったディバイスによって構成されている。

V2ガンダム用のビームライフルも、基本構成は変わらない。特筆すべきは、信号弾やグレネード（榴弾）を発射するマルチブルランチャーがフォアグリップ部分に追加された点だろう。もちろん、威力の増強も計られている。

リガミリティア、地球連邦軍の共用火器として知られるのが、ビームバズーカである。この火器は、0120年代に新世代のMS用ウェポンとして脚光を浴びたビームランチャーの普及型といったものである。

その設計はサナリイによるもので、F90III-Yクラスターガンダムに実験的に装備されたことがある。その後、地球連邦軍に正式採用されジェムズガンやジャベリンが使用するようになった。現在、

その生産はアナハイムによって行われている。

リガミリティアで使用しているビームバズーカは外観は同一であるが、ハードポイントに接続するコネクタ一部分とエネルギーバックの容量が改良されている。

連邦軍製MSのハードポイントは単なる兵装ラックにすぎないものだ。

最後に、Vダッシュガンダムが使用するメガビームライフルについて、解説を加えておこう。ライフルと称されているものの、ランチャー以上の威力を誇る対艦用クラスの重火器であり、サポートディバイスで総出力を強化したVダッシュガンダムでなくては使いこなせないものだ。このメガビームライフルは、ハツ手バームサーベルと共に太陽電池衛星ハイラ



ンドの武器庫に収納されていた。その開発はリガミリティアではなく、かなり以前に別のモビルスーツ用として、作られたようだがVガンダムに見事、適合した。ビームサーベルは、いくつかの型式が存在するが、リガミリティアと連邦軍のMSならどのタイプでも適合するようになっていた。

ザンスカール帝国側のMS開発は、その出発点が「弾道研究と宇宙偵察部隊」であったために、実にさまざまなモビルスーツが製造されている。そして、その武器もまた実に豊富である。

ザンスカール帝国軍の総称であるベスパが最初に調達したMS、ゾロアットからしてビームストリングスなる新機軸の武器を搭載したウエポンバイnderが装備されていた。

地球進攻作戦が開始された時点では、ゾロを戦闘ヘリや爆撃機として運用するためにミサイル弾ポッドや爆撃ユニットが用意された。これらは、ラゲーン空港の占領、周辺都市の制圧およびウーイツグ爆撃に戦果をあげた。ヨーロッパ地区制圧のための拠点作りを終えたベスバは反抗組織リガミリティアの掃討を始めた。同時にラゲーン基地駐留軍に試作型MSの試験中隊を組織した。ここでは、ZMTS12Gシャッコイ、ZMTS13Gコッゾーラ、ZMTS16Gメツメドーザが試験配備され、実戦にも参加している。また、ラゲーン基地とは別にモトラッド艦のデータ収集のためドゥカー・イ

ク大尉のガッタル隊も地球に降下した。この部隊はMSではなく戦闘バイクによって編成されているものだが、水陸両用の可変試作型MSであるZMT-D15Mガルグイユを使用したこともあった。

試作型MSにはガルグイユをのぞいてすべて共通タイプのビームライフルが使われた。これは、後にゾリディア用として正式採用された。

ZMS08ゾロの基本武装は、ビームライフルで、これは右脚部の収納スペースに治められる。ビームバズーカも小型に作られているため、ここに入れることができる。だが、連邦軍／リガミリティア側のビームバズーカに比べて威力が弱く、兵士たちの評判は芳しいものではない。

そのため、ビビニードン隊ではゾロではもてあまし気味だったマルチバズーカ力バズーカを好んで使用するようになった。このバズーカは実体弾とビームを併用できるベスバらしい革新的なアイデアの重火器である。

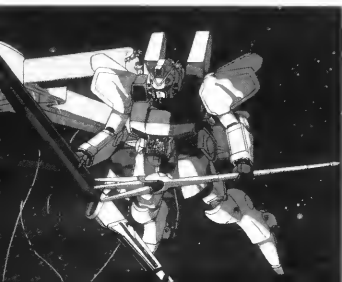
ソロに試験的に取り付けられた重火器のひとつに、大型バルカン砲がある。こ

れはクロノクルがボトムリムに搭載してVガンダムとの初戦闘で使用した。だが、MS時のみにしか使用できないという弱点と、発射時の制御が難しかったため、トムリアットでもあまり使われることはなかった。そこでそれらのデータから、発射時の反動をおさえるコントロールアームが開発され、ZMS06Gゾリアで実用化に成功した。

このアームは、ゼロアットのウエポン
バインダーのアーム技術を応用したもの
であるらしい。

ペスハのMSは、すべて試作時にその機体の反応速度や射撃等をサンプリング。それに適応したビームライフルが開発されている。そのため、制式採用された機体はすべて異なる武器を持つ。だが、必ずしも他機種に適合しないわけではなく、よりその機種の性能をひきだすような武器が開発されているのである。

ビームサーベルは、リガミリティア連邦軍のように全機種に適合するようになっているが、ゾロのようにビーム砲として共用する大型タイプと、機体内部に収納される小型タイプに大別される。



■リガミリティア/連邦軍MS用銃器



ビームライフル
(V2ガンダム)



ビームピストル
(V、V2他)



ビームライフル
(V、ガンイージ他)



ビームライフル(ジェムズガン)



ビームライフル(ジャベリン)



LM仕様(旧塗装)



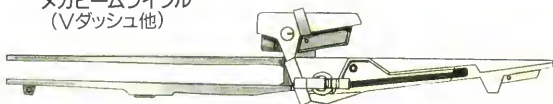
連邦軍仕様



LM仕様(新塗装)

メガビームバズーカ(ガンイージ他)

メガビームライフル
(Vダッシュ他)



■ザンスカール帝国軍MS用銃器

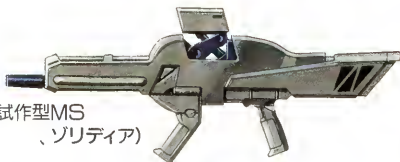
ビームライフル(ゾロアット他)



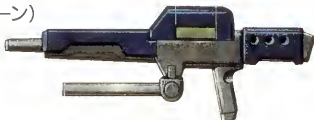
ビームライフル(トムリアット)



ビームライフル(試作型MS
、ソリディア)



ビームライフル(シャイターン)



ビームバズーカ(ゾロ他)



ガドリングガン(ソリディア他)



マルチバズーカ(トムリアット他)



Challenge.1

付属シールでリアルタイプに!

マーキングシールの使い方

本誌中央にとじてあるマーキングシールを使えば、君のプラモデルも、よりリアルに仕上げるができます。ちょっと面倒な作業だけど、その効果は抜群!

① まず、本誌中央からマーキングシールをていねいにはずします。ハンドブック本体は壊さないように注意しましょう。

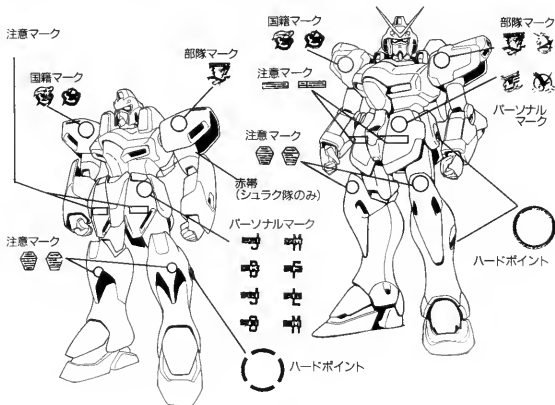
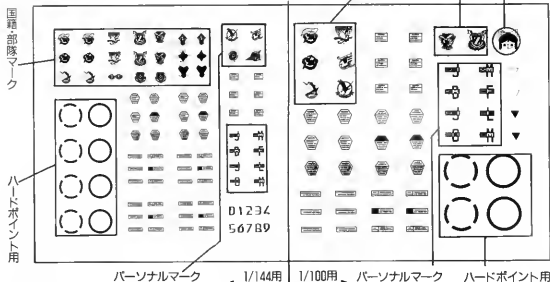
② カッター等を使って、マークの回りを切り取ります。刃先には十分注意してください。また、台紙ごとハサミ等で切りはなしてもよいでしょう。

③ 切り取ったマークを、プラモデル本体に貼ります。ハンドブックのカラーページを見比べながら、貼る位置や向きをまちがえないようにしましょう。

※ 注意書きのマークは、貼る種類や位置は、特に指定はありません。カラーページのイラストを参考にしながら、好きな所に貼りましょう。

■付属シール

リカ・ミリティア専用 ザンスガール専用 おまけ(笑)



MODELING GUIDE

Challenge.2

カラーバリエーションに挑戦!

缶スプレーによるカラーリング

バトルMSコレクションシリーズでは、本体の各部パーツが、ポリパーツ（Vフレーム）で連結された構造をしています。今回は、これを利用して、ジェムズガンのカラーバリエーションを簡単に作ってみましょう。

■用意するもの

ジェムズガン（完成させておくこと）
缶スプレー（模型用のもの。使う色は、下の表を見てね）
新聞紙などの大きな紙。又は、ふろしきなど。（スプレー塗料を使うときは、回りを汚さないように必ず敷きましよう）

・割りばし、両面テープなど。（部品を固定するのに使います。）
① 一度完成したジェムズガンから、Vフレームを抜いて各パーツごとに分けます。

② 色を付けたパーツを、割りばしの先などに固定します。

③ 固定したパーツに向かって缶スプレーで色を付けます。約30cm位はなして、各方向から、まんべんなく塗りまします。

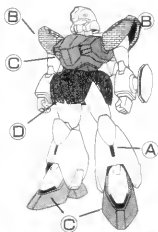
一度に大量に缶スプレーで塗ると、乾かないばかりか、ムラ（ベタ）になります。少しずつ塗っては乾しながら、何度も塗るようにします。

④ 塗料が完全に乾いたら、再びVフレームを使って各パーツを組み立ててみましょう。

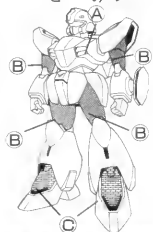
また、細い筆を使って細部を塗るとよりリアルになります。

もちろん、バトルMSコレクションは色を塗らなくてもカラフルな仕上がりが味わえます。

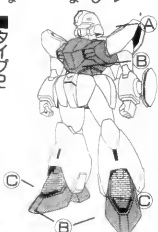
接着剤は不要のスナップフィットキットですが、塗装される方は接合面を接着し、乾いてから紙ヤスリをかけて、合わせ目を消すようにしましょう。さらに、美しい仕上がりとなります。



■タイプ3



■タイプ2



■タイプ1

ジェムズガン塗り分け対比表

タイプ	A	B	C	脚インターク	その他
ヨーロッパ地区 配備機	明灰白色orライトブルー			黄褐色	腹部・シャインレッドor西武レッド①
宇宙戦艦 所屬機	ホワイト	シャインレッド or西武レッド①	ホワイト	ニュートラル グレー	腰アーマー上半部 シャインレッドor西武レッド①
コロニー守衛機	セールカラー	近鉄 ダークブルー①	セールカラー	黄褐色	腰アーマー上半部 シャインレッドor西武レッド①
初撃量産タイプ	京阪ライトグリーン①		シャインレッド or西武レッド①	軍艦色	肩ハッチ部分・腰アーマー上半部・手首部分 シャインレッドor西武レッド① 足関節部分・軍艦色
砂漠用 改造タイプ1	サンドイエロー	マホガニー	サンドイエロー	シャインレッド or西武レッド①	肩ハッチ部分・足関節部分・軍艦色 腰アーマー上半部 シャインレッドor西武レッド①
タイプ	A	B	C	脚インターク	その他
インド地区機 機2号機	ホワイト	ホワイト	ブラック	ブラック	肩ハッチ部分・腰アーマー上半部・ブラック
タイプ	A	B	C	脚インターク	その他
アマン守衛機	軍艦色		マホガニー	シャインレッド or西武レッド①	肩ハッチ部分 シャインレッドor西武レッド①
砂漠用 改造タイプ2	サンドイエロー	マホガニー	サンドイエロー	シャインレッド or西武レッド①	脚部分・腰アーマー上半部 マホガニー

*上記のカラー名は、塗り分けの一例です。混色等 設定とは一部異なるものもあります。

*①は鉄道カラーです。

*ラントセルはニュートラルグレーor軍艦色。絶版は、カラーページを参照してください。

Take off!

ピピニーデン隊

ビームローターのタキシング（はたして、音はするのかな？）が聞こえるようなジオラマが作れたら……そんな気持ちでラゲーン基地を再現してみました。アニメ設定のラゲーン基地は、元民間機の離着陸する飛行場で新東京国際空港（成田）のような立派な管制塔や搭乗ゲートがあるような所のようなのです。

クロノクルやピピニーデンの私室になっていたゴージャスな造りの部屋は、空港時代のVIPルームだったそうです。

でも、トムリアットやゾロにはそぐわないイメージ。（管制塔を作るのが大変だということもあるけど。）そこで、エアフィックスの再販で出回っていた軍事基地の管制塔を使わせてもらいました。屋上の「RG」は「ラゲーン」のつもりなのですが、スペル合っているのかな？ このキットはH0スケール（87分の1）なので、ちょっとサイズが合わないため手前にセッティングして、それらしく見せています。手前にちらっと見えているゾロのトップターミナルとボトムターミナルは、100分の1スケールのガレジキットです。



トムリアットの戦闘ヘリ形態は「模型情報」誌上で作ったものがあったので、それを型取りして3機量産しました。すべてパープルでは面白くないので、1機だけグリーンのエエロージャケット仕様を混ぜてみました。MS形態のトムリアットは、ピピニーデン機のもりです。

（ジオラマ製作/佐藤文和、モデル製作協力/亀坂修弘、写真撮影/高瀬ゆうじ）



DIORAMA



▲もちろん、この「ハンドブック」が完成する前にやった作業なので、中に入っているイラストとちょっとマーキングが違います。ブラパーソのビームローターは、シラけるので付けていません。



プラモデル商品リスト

チェック欄は購入の有無や、制作中、完成、等を区分してチェックできます。上手に活用してください。

スケール		品名	発売月	価格	チェック欄
■HG・EXシリーズ					
1	1/60	V2ガンダム	93.10	¥3,000	<input type="checkbox"/>
■HGシリーズ					
1	1/100	Vガンダム	93. 4	¥1,500	<input type="checkbox"/>
2	1/100	Vダッシュガンダム	93. 7	¥1,800	<input type="checkbox"/>
3	1/100	ガンブラスター	93. 8	¥1,000	<input type="checkbox"/>
4	1/100	V2ガンダム	93. 9	¥1,500	<input type="checkbox"/>
5	1/100	ソリアア	93.11	¥1,000	<input type="checkbox"/>
■バトルMSコレクション					
1	1/144	Vガンダム	93. 5	¥500	<input type="checkbox"/>
2	1/144	ガンイージ	93. 5	¥500	<input type="checkbox"/>
3	1/144	ジェムズガン	93. 6	¥500	<input type="checkbox"/>
4	1/144	トムリアット	93. 6	¥500	<input type="checkbox"/>
5	1/144	ソロアット	93. 7	¥500	<input type="checkbox"/>
6	1/144	ジャベリン	93. 7	¥500	<input type="checkbox"/>
7	1/144	Vダッシュガンダム	93. 8	¥700	<input type="checkbox"/>
8	1/144	コンティオ	93. 8	¥500	<input type="checkbox"/>
9	1/144	V2ガンダム	93. 9	¥700	<input type="checkbox"/>
10	1/144	シャイターン	93. 9	¥500	<input type="checkbox"/>
11	1/144	ガンブラスター	93.10	¥700	<input type="checkbox"/>
12	1/144	アビゴル	93.10	¥700	<input type="checkbox"/>
13	1/144	リグシャッコー	93.11	¥500	<input type="checkbox"/>
14	1/144	武器セット	93.11	¥500	<input type="checkbox"/>

*価格は、メーカー小売価格です。尚、この価格には消費税は含まれていません。

■1/144 武器セット

武器セットにも、リアルマーキングシールが付いています。第15話以後のMS用マーキングも豊富に揃っています。

武器のパーツのほか、リアルになったグリップのバリエーションも見逃せません。



MODELING GUIDE

次号予告

掲載予定MS■LM314V21 V2ガンダム

■RGM-121 ジャベリン

■ZM-S06S ゾロアット

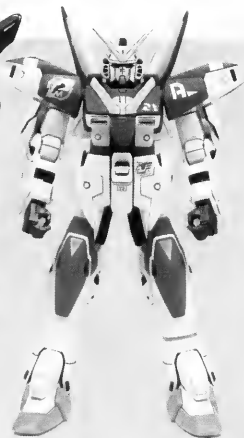
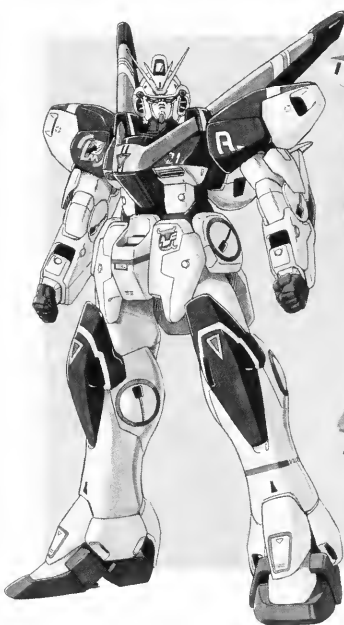
■ZM-S14S コンティオ

■ZM-S19S シャイターン

他ZMTナンバーの試作機も続々登場

この「ニューMSVハンドブック」に対するご意見・ご希望をお聞かせください。次号以降の参考にさせていただきます。

あて先〒111-81バンダイ ホビー事業部 ニューMSVハンドブック①係



1/100 V2ガンダム



機動戦士Vガンダム NEWモビルスーツバリエーション ハンドブック①

1993年 11月 初刷

編集・発行 株式会社バンダイホビー事業部

協力 株式会社サンライズ

表紙イラスト 大河原邦男

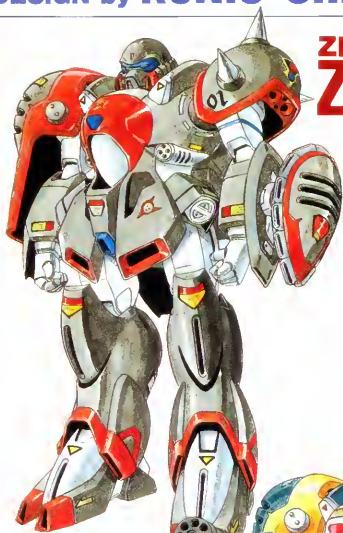
編集協力 安井尚志

株式会社マインド

株式会社マイク

印刷 凸版印刷株式会社

落丁、乱丁本は当社にておとりかえいたします。



ZM-S06G
ZOLLIDIA

●モトラッド艦隊
クロノクル・アシャー
大尉塔乗機

●モトラッド艦隊所属
一般兵用



■MS SPEC

頭 頂 高：14.7m

本体 重量：9.8t

全備 重量：20.9t

装甲 材質：チタン合金ネオセラミック複合材

ジェネレーター出力：5440kW

スラスター推力：60800kg×1.20170g×1

アポジモーター数：35

武 装：	ビームサーベル	×2
	ビームシールド	×1
	ビームライフル	×1
	ハードポイント	×2

機動戦士Vガンダム

NEWモビルスーツバリエーション・ハンドブック①

株式会社バンダイホビー事業部
〒111-81 東京都台東区駒形2-5-4
TEL：03-3847-5116〈直通〉

647274-0042193-200



4902425 42193 3